

日本目録規則2018年版の 新NACSIS-CAT/ILLへの適用

システムワークフロー検討部会 メタデータ流通の高度化検討班
目録チーム 木下 直

「在り方（2019）」が示す「進むべき方向性」（2）

（4）メタデータの高度化

他機関（NDL、出版社等）と連携し、RDA（Resource Description and Access）及び日本目録規則 2018 年版への対応のほか、BIBFRAME 等の新たな国際標準への対応について検討を行う。

（5）学術情報資源の確保

印刷体とともに、幅広く電子情報資源（大学等のデジタルアーカイブや過去資料の電子化を含む）を確保するとともに、統合的発見環境を通じたアクセス及び資源共有を推進する方策を検討する。

「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について（案）」の検討と策定から抜粋

- これらを具現化させるためには、図書館をめぐるさまざまなシステムやサービスを設計する必要があることに加え、その中で提供されるメタデータがシステムやサービス、利用者にとって適切かつ望ましいものであることが求められる
- とくに（4）（5）では、メタデータが主役ともいうべき位置づけ

「物理的(Physical)な資料」のメタデータ

- 2023年度に、「**日本目録規則2018年版**」(NCR2018)の適用を開始することにより、相互運用性を高め、より豊かで、図書館職員のみならず、**利用者(エンドユーザー)**にわかりやすい目録を構築することを目標とし、提言を行っている
- 典拠コントロールの拡大やリンクトデータを踏まえた外部典拠データとの連携などについても検討

「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(案)」の検討と策定から抜粋

NCR改訂の背景： 目録法の変革

1960~70年代に作られた、現・枠組み

その後の環境変化

対象資料の多様化

目録の作成・提供環境の電子化

インターネットによる情報流通の変化



1997 FRBR（書誌レコードの機能要件）
新しい目録の「概念モデル」

2009 ICP（国際目録原則）
パリ原則の後継

2010 RDA（Resource Description and Access）
AACR2（英米目録規則）の後継

日本目録規則（NCR）2018年版の特徴

FRBRを基盤とする ことによる特徴	FRBRモデルに密着した規則構造 典拠コントロールを明確に位置づけ 全著作の典拠コントロール 関連の記録 資料の内容的側面と物理的側面の整理 機械可読性の向上
RDAとの相互運用性 の担保に伴う特徴	エレメントの設定（増強など） 語彙のリスト 意味的側面と構文的側面の分離 機械可読性の向上
その他、日本の事 情等による特徴	「読み」等に関するルール 書誌階層構造の考え方 日本の出版状況、目録慣行を考慮

FRBRモデルに基づくNCR2018の特徴

- 典拠コントロールを明確に位置付け
「著作」「個人」「団体」等も実体として、諸属性を設定
従来の規則では、「標目」「参照」の規定のみ
- 「関連」の重視
実体の属性とは別立てで管理
目録提供時のリンク機能に落とし込みやすい
- 内容的側面と物理的側面の問題を整理
表現形の設定で、資料の構造把握を精密化
著作・表現形を、これまでより重視
- 機械可読性の向上
モデルを基盤とした規則構造

NCR2018年版の「資料種別」

資料種別ごとの章立てを撤廃

資料種別の再編成

表現形の種別：「表現種別」

テキスト、地図、楽譜、演奏、話声、音声、静止画、二次元動画、
三次元動画、テキスト(触知)、コンピュータ・プログラム...

体現形の種別：「機器種別」「キャリア種別」

機器種別(必要な機器の種別)

オーディオ、映写、マイクロ、コンピュータ、機器不用...

キャリア種別(媒体の種別)

コンピュータ・ディスク、オンライン資料...(コンピュータの場合)

冊子、シート、カード...(機器不用の場合)

NCR2018、RDAの適用の状況

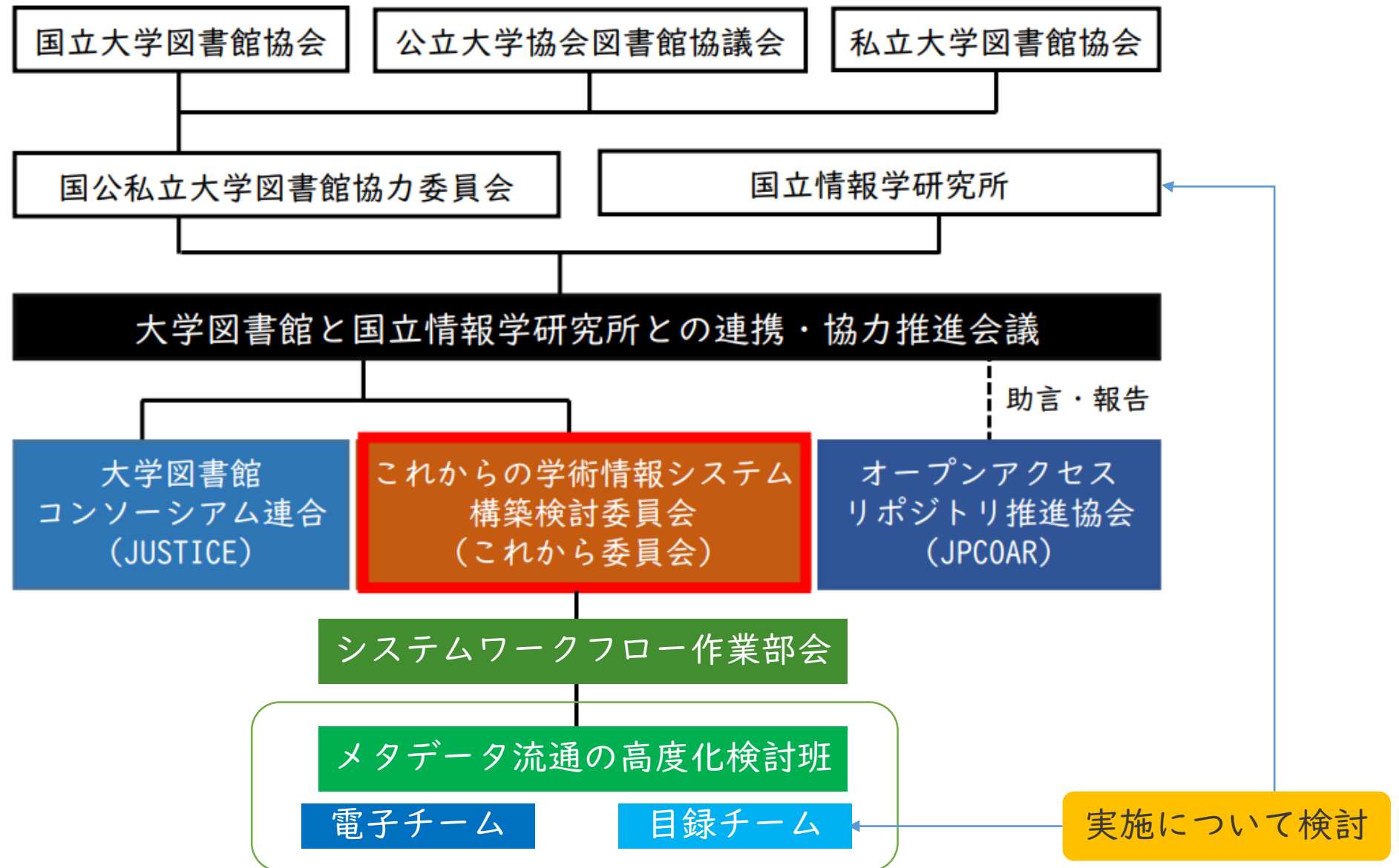
- 国立国会図書館（NDL）MARC → 2021年1月からNCR2018適用
著作の典拠データ作成
- TRCの日本語のMARC → 2022年1月からNCR2018適用
新たに著作典拠ファイルを提供
- 海外書誌作成機関のその他の言語のMARC → RDA適用



- NACSIS-CAT/ILL参加館作成の書誌データ（CATP形式）

NCR2018の適用を検討

検討の組織



NCR2018適用決定の流れ

メタデータ流通の高度化検討班（目録チーム）で適用の検討案



パブリックコメントなどで意見集約←イマココ



これから委員会で決定



NIIで技術的検討

決定が必要な項目

- NCR適用細則案←イマココ
- 洋書への適用検討
- コーディングマニュアルの適用案

NCR2018適用細則案

- NDLの適用細則案をもとに検討
- パブリックコメント募集 2022/2/25～3/25
- 総説・属性総則
- 和図書
- 和逐次刊行物
- 関連
- 付録

洋書へのNCR2018適用も意見集約

パブリックコメントでのご意見

- NCR2018をいつから適用するのか
- CAT2020で簡易化したのにまた変更するのか
- 2023年度の対応は難しいのでは
- コーディングマニュアルがどう変わるのか示してほしい
- データの記述がどう変わるのか示してほしい
- 事前に十分な研修が必要
- 適用案を見る余裕がなかったので、再度検討の機会を設けてほしい

NCR2018 の洋書への適用についてのご意見

望ましい	58%
望ましくない	17%
どちらでもよい	13%
その他	13%

なぜ洋書にもNCR2018適用か

- RDAの習熟が、機関によっては困難
- RDA Toolkitを、機関によっては契約するのが困難
- CAT2020以降、さまざまな目録規則によるデータを許容する方針のため、RDAによる目録作成を希望する機関はRDAによる業務を選択可能

適用による変更（案）

- CATPの形式の変更や新規項目の追加は今回は行わない。
- 新規項目は注記に入れることを予定している。

注記

表現種別：テキスト

機器種別：機器不用

キャリア種別：冊子

JP MARCデータ

24500	6 880-01	a つまみ虎の巻 : b 鎌倉おおはま / c 大濱幸恵 著
264 1	6 880-02	a 東京 : b KADOKAWA, c 2022.3
300	a 141p :	c 24cm
336	a テキスト	2 ncrcontent
337	a 機器不用	2 ncrmedia
338	a 冊子	2 ncrcarrier

著作の取り扱い（案）

受け入れる著作のデータ

- NDL + TRCが作成する著作データ
- 海外書誌作成機関が作成する著作データ

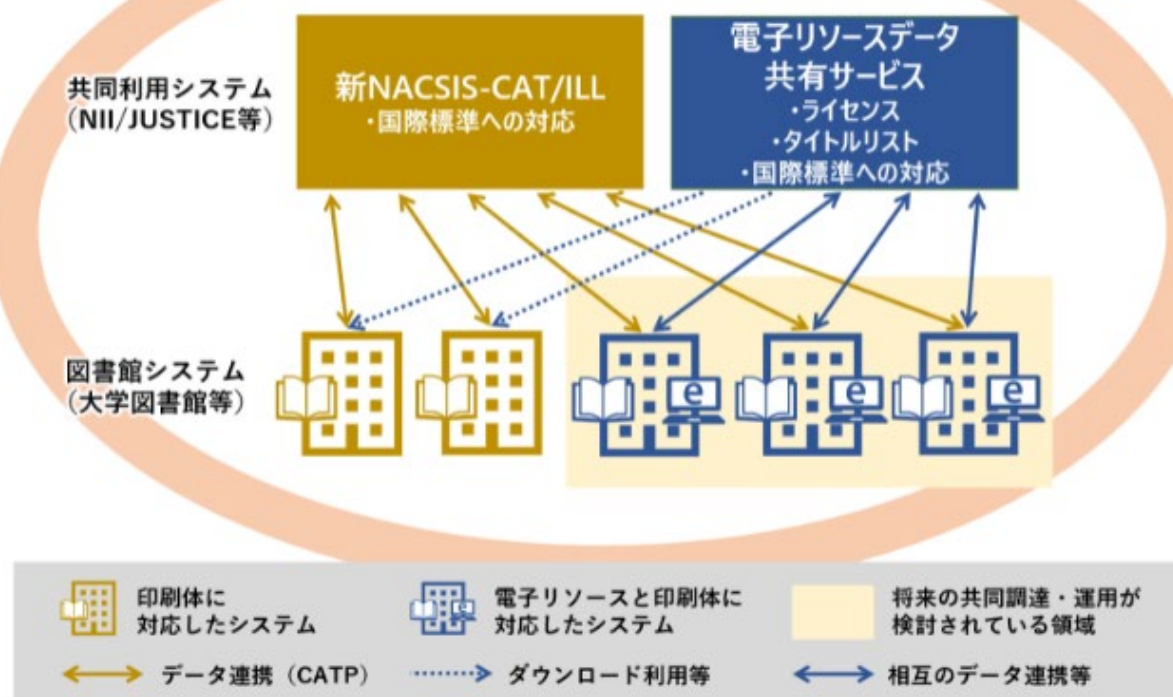
作成する著作のデータ

- 日本語、中国語の古典籍、その他言語の無著者名古典作品
- 聖典
- 音楽作品

新NACSIS-CAT/ILL

印刷体に対応した
システムはOCLCのCBS
MARC21準拠だが当面は
CATP形式で運用

図書館システム・ネットワーク（大学等）



2022年度第4四半期 NII共同利用システムリプレイス



- 今回はCATP形式の中でのNCR2018適用
- 研修はNII研修担当とも協力して検討

ご清聴ありがとうございました